



Cisco Nexus 3548 スイッチ NX-OS QoS コンフィギュレーション ガイド リリース 5.0(3)A1(1)

初版：2012年11月06日

最終更新：2012年11月06日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

はじめに v

対象読者 v

表記法 v

Nexus 3548 スイッチ NX-OS ソフトウェアの関連資料 vii

マニュアルに関するフィードバック viii

概要 1

Quality of Service (QoS) の概要 1

QoS の設定 3

QoS について 3

モジュラ QoS CLI 3

システム クラス 5

デフォルトのシステム クラス 5

ポリシー タイプに関する情報 5

MTU 8

信頼境界 9

入力分類ポリシー 9

出力キューイング ポリシー 9

CPU 方向のトラフィックの QoS 10

QoS 設定の注意事項と制限事項 10

システム クラスの設定 11

クラス マップの設定 11

ACL 分類の設定 12

CoS 分類の設定 13

DSCP 分類の設定 14

IP RTP 分類の設定 16

Precedence 分類の設定 17

ポリシーマップの作成	18
type qos ポリシーの設定	20
type network-qos ポリシーの設定	21
type queuing ポリシーの設定	22
マーキングについて	23
CoS マーキングの設定	23
DSCP マーキングの設定	24
IP precedence マーキングの設定	26
システム サービス ポリシーの追加	28
デフォルト システム サービス ポリシーの復元	28
ジャンボ MTU のイネーブル化	29
ジャンボ MTU の確認	30
インターフェイスでの QoS の設定	31
タグなし CoS の設定	31
バッファとキューの設定	32
マルチキャストの低速受信ポートの設定	32
特定の QoS グループまたは仮想レーンに使用するバッファの割合の設定	32
SPAN トラフィックに使用するバッファの割合の設定	33
QoS 設定の確認	34



はじめに

ここでは、次の項について説明します。

- [対象読者](#), [v ページ](#)
- [表記法](#), [v ページ](#)
- [Nexus 3548 スイッチ NX-OS ソフトウェアの関連資料](#), [vii ページ](#)
- [マニュアルに関するフィードバック](#), [viii ページ](#)

対象読者

このマニュアルは、Cisco Nexus デバイスのコンフィギュレーションおよびメンテナンスを担当する経験豊富なネットワーク管理者を対象としています。

表記法

コマンドの説明には、次のような表記法が使用されます。

表記法	説明
bold	太字の文字は、表示どおりにユーザが入力するコマンドおよびキーワードです。
<i>Italic</i>	イタリック体の文字は、ユーザが値を入力する引数です。
[x]	角カッコで囲まれているものは、省略可能な要素（キーワードまたは引数）です。
[x y]	いずれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードや引数は、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。

表記法	説明
{x y}	必ずいずれか1つを選択しなければならない必須キーワードや引数は、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x {y z}]	角カッコまたは波カッコが入れ子になっている箇所は、任意または必須の要素内の任意または必須の選択肢であることを表します。角カッコ内の波カッコと縦棒は、省略可能な要素内で選択すべき必須の要素を示しています。
variable	ユーザが値を入力する変数であることを表します。イタリック体を使用できない場合に使用されます。
string	引用符を付けない一組の文字。stringの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてstringとみなされます。

例では、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
screen フォント	スイッチが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

**注意**

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

Nexus 3548 スイッチ NX-OS ソフトウェアの関連資料

Cisco Nexus 3548 スイッチ NX-OS マニュアルセットは、次の URL で入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/tsd_products_support_series_home.html

リリースノート

リリースノートは、次の URL から入手できます。

http://cisco.com/en/US/products/ps11541/prod_release_notes_list.html

インストールガイドおよびアップグレードガイド

インストールガイドおよびアップグレードガイドは、次の URL から入手できます。

http://cisco.com/en/US/products/ps11541/prod_installation_guides_list.html

ライセンス情報

NX-OS の機能ライセンスの詳細については、『*Cisco NX-OS Licensing Guide*』を参照してください。次の URL で入手可能です。http://www.cisco.com/en/US/docs/switches/datacenter/sw/nx-os/licensing/guide/b_Cisco_NX-OS_Licensing_Guide.html

NX-OS のエンドユーザ契約書および著作権の詳細については、『*License and Copyright Information for Cisco NX-OS Software*』を参照してください。次の URL で入手可能です。http://www.cisco.com/en/US/docs/switches/datacenter/sw/4_0/nx-os/license_agreement/nx-ossw_lisns.html

コンフィギュレーションガイド

コンフィギュレーションガイドは、次の URL から入手できます。

http://cisco.com/en/US/products/ps11541/products_installation_and_configuration_guides_list.html

コマンドリファレンス

コマンドリファレンスは、次の URL で入手できます。

http://cisco.com/en/US/products/ps11541/prod_command_reference_list.html

エラーメッセージおよびシステムメッセージ

エラーメッセージおよびシステムメッセージリファレンスガイドは、次の URL から入手できません。

http://cisco.com/en/US/products/ps11541/products_system_message_guides_list.html

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。



第 1 章

概要

この章の内容は、次のとおりです。

- [Quality of Service \(QoS\) の概要, 1 ページ](#)

Quality of Service (QoS) の概要

このマニュアルでは、設定可能な Cisco NX-OS Quality of Service (QoS) 機能について説明します。QoS 機能は、ネットワークを経由するトラフィックの最も望ましいフローを提供するために使用します。QoS を使用すると、ネットワークトラフィックの分類、トラフィックフローの優先順位付け、および輻輳回避の実現が可能になります。トラフィックの制御は、システムを通過するパケット内のフィールドに基づいて行われます。Modular QoS CLI (MQC; モジュラ QoS コマンドラインインターフェイス) は、QoS 機能のトラフィッククラスとポリシーを作成するのに使用します。

QoS 機能は、QoS ポリシーとキューイングポリシーを次のように使用して適用します。

- QoS ポリシーには、分類機能とマーキング機能が含まれます。
- キューイングポリシーでは、キューイングおよびスケジューリング機能を使用します。
- ネットワーク QoS ポリシーには、最大伝送単位 (MTU) の設定が含まれます。



第 2 章

QoS の設定

この章の内容は、次のとおりです。

- [QoS について, 3 ページ](#)
- [QoS 設定の注意事項と制限事項, 10 ページ](#)
- [システム クラスの設定, 11 ページ](#)
- [インターフェイスでの QoS の設定, 31 ページ](#)
- [バッファとキューの設定, 32 ページ](#)
- [QoS 設定の確認, 34 ページ](#)

QoS について

設定可能な Cisco NX-OS QoS (Quality of Service) 機能を使用して、ネットワーク トラフィックを分類し、トラフィック フローに優先順位を付けて、輻輳回避を実行できます。

デバイス上のデフォルトの QoS 設定により、イーサネット トラフィックの Class of Service (CoS; サービスクラス) を追加するよう QoS を設定できます。Cisco NX-OS QoS 機能は、Cisco Modular QoS CLI (MQC) を使用して設定されます。



(注) 輻輳や衝突が発生した場合、イーサネットではパケットが廃棄されます。失われたデータの検出および廃棄されたパケットの再送信は、上位プロトコルにより行われます。

モジュラ QoS CLI

Cisco MQC は、QoS を設定するための標準コマンドセットを提供します。

MQCを使用して、追加のトラフィッククラスを定義し、システム全体および個別のインターフェイスに対して QoS ポリシーを設定できます。MQC で QoS ポリシーを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 トラフィック クラスを定義します。
- 2 各トラフィック クラスにポリシーおよびアクションをアソシエートします。
- 3 ポリシーを論理インターフェイスまたは物理インターフェイスに結合します。同様にグローバル システム レベルで結合できます。

MQCには、トラフィックのクラスとポリシーを定義するために、2つのコマンドタイプが用意されています。

class-map

パケット一致基準に基づいて、トラフィックのクラスを表すクラス マップを定義します。クラス マップはポリシー マップ内で参照されます。

クラス マップは、IEEE 802.1p サービス クラス (CoS) 値などの一致基準に基づいて、着信パケットを分類します。ユニキャストパケットおよびマルチキャストパケットが分類されます。

policy-map

クラス単位でクラス マップに適用するポリシーのセットを表すポリシー マップを定義します。

ポリシー マップは、帯域幅の制限やパケットのドロップなど、アソシエートされたトラフィック クラスで実行するアクションセットを定義します。

クラスマップおよびポリシーマップを作成する場合は、次の **class-map** および **policy-map** オブジェクトタイプを定義します。

network-qos

システム レベルの関連アクションに使用できる MQC オブジェクトを定義します。

qos

分類に使用できる MQC オブジェクトを定義します。

queuing

キューイングおよびスケジューリングに使用できる MQC オブジェクトを定義します。



(注) qos タイプは、**class-map** コマンドおよび **policy-map** コマンドのデフォルトですが、タイプを明示的に指定する必要がある **service-policy** では、デフォルトではありません。

ポリシーは、**service-policy** コマンドを使用して、インターフェイスまたは EtherChannel に追加できるほか、グローバル システム レベルで追加できます。

show class-map コマンドおよび **show policy-map** コマンドを使用して、MQC オブジェクトのすべてまたは個々の値を表示できます。

MQC ターゲットは、パケットのフローを表すエンティティ（イーサネット インターフェイスなど）です。サービス ポリシーはポリシー マップを MQC ターゲットに関連付け、着信または発信パケットでポリシーを適用するかどうかを指定します。このマッピングにより、マーキング、帯域割り当て、バッファ割り当てなど、QoS ポリシーの設定をイネーブルにします。

システム クラス

システム qos は一種の MQC ターゲットです。サービス ポリシーを使用して、ポリシー マップをシステム qos ターゲットに関連付けます。特定のインターフェイスでサービス ポリシー設定を上書きしない限り、システム qos ポリシーはスイッチのインターフェイス全体に適用されます。システム qos ポリシーは、システム クラスやスイッチ全体のトラフィック クラスのほか、それらの属性を定義するために使用します。

サービス ポリシーがインターフェイス レベルで設定されている場合、インターフェイス レベルのポリシーは常にシステム クラス設定またはデフォルト値よりも優先されます。

Cisco Nexus デバイスでは、システム クラスは qos-group 値によって一意に識別されます。全体で 8 つのシステム クラスがサポートされています。デバイスは、スイッチに常に存在する 1 つのデフォルト クラスをサポートします。最大 7 つの追加システム クラスを管理者が作成できます。

デフォルトのシステム クラス

デバイスは、次のシステム クラスを提供します。

- ドロップ システム クラス

デフォルトでは、すべてのユニキャストおよびマルチキャスト イーサネット トラフィックは、デフォルトのドロップ システム クラスに分類されます。このクラスは qos-group 0 で識別されます。

システムの起動時にこのクラスは自動的に作成されます（クラス名は CLI で **class-default** です）。このクラスは削除できません。このデフォルト クラスに関連付けられた一致基準も変更できません。

ポリシー タイプに関する情報

このデバイスは、複数のポリシー タイプをサポートしています。クラス マップはポリシー タイプで作成します。

3 つのポリシー タイプがあります。

- network-qos
- キューイング

- QoS

クラスの各タイプには、次の QoS パラメータを指定できます。

- タイプ **network-qos** : **network-qos** ポリシーを使用して、システムクラスをインスタンス化し、システム全体のスコープを持つそれらのクラスにパラメータを関連付けます。
 - 分類 : このクラスに一致するトラフィックは次のとおりです。
 - QoS グループ : type **network-qos** のクラスマップはシステム クラスを示し、関連付けられた **qos-group** によって照合されます。
 - ポリシー : 一致したトラフィックで実行されるアクションは次のとおりです。



(注) **network-qos** ポリシーは、システム **qos** ターゲットだけに結合できます。

- MTU : システム クラスにマッピングされたトラフィックに適用する必要がある MTU。



(注) Cisco Nexus デバイスは、すべてのポートのすべてのクラスに対して 1 MTU をサポートします。

- CoS 値の設定 : このシステム クラスにマッピングされたすべてのトラフィックに 802.1p 値をマーク付けする場合に使用します。
- 輻輳制御 DCTCP および ECN : データセンター TCP (DCTCP) は、データセンターネットワークの TCP 輻輳制御アルゴリズムの拡張です。明示的輻輳通知 (ECN) 機能を利用して、キューの長さが設定した DCTCP しきい値を超えたときに、すべてのパケットをマークします。ルータとエンドホストは、このマーキングをネットワークの輻輳によってパケットの送信速度が低下していることを示す警告として使用します。DCTCP/ECN をイネーブルにするには、**network-qos** ポリシーマップモードで「**congestion-control dctcp ecn**」コマンドを使用します。



(注) **network-qos** ポリシークラスの DCTCP および ECN をイネーブルにすると、システムすべてのポートで DCTCP および ECN がイネーブルにされることを意味します。

- タイプ **キューイング** : タイプ **キューイング** ポリシーを使用して、システム クラスに関連付けられたキューのスケジューリング特性を定義します。

Cisco Nexus デバイスは、出力方向でタイプ **queuing** をサポートします。



(注) 一部の設定パラメータは、EtherChannel に適用されていると、メンバーポートの設定に反映されません。

- 分類：このクラスに一致するトラフィックは次のとおりです。
 - QoS グループ：タイプキューイングのクラスマップは、システムクラスを示し、関連付けられた QoS グループによって照合されます。
- ポリシー：一致したトラフィックで実行されるアクションは次のとおりです。



(注) システム qos ターゲットまたは任意のインターフェイスに結合できます。出力キューイングポリシーを使用して、システムクラスに関連付けられた、デバイスの出力キューを設定します。

- 帯域幅：保証されるスケジューリング Deficit Weighted Round Robin (DWRR) の割合 (%) をシステムクラスに設定します。
 - プライオリティ：システムクラスを完全プライオリティスケジューリング用に設定します。指定されたキューイングポリシーで、優先するシステムクラスを1つのみ設定できます。
- タイプ qos：タイプ QoS ポリシーを使用して、フレーム内にあるレイヤ2、レイヤ3、レイヤ4の各種フィールドに基づいたトラフィックを分類し、システムクラスにマッピングします。



(注) 一部の設定パラメータは、EtherChannel に適用されていると、メンバーポートの設定に反映されません。

- 分類：このクラスに一致するトラフィックは次のとおりです。
 - アクセスコントロールリスト：既存の ACL の基準に基づいてトラフィックを分類します。
 - サービスクラス：フレームヘッダーの CoS フィールドに基づいてトラフィックを照合します。
 - DSCP：IPヘッダーの DiffServ フィールドにある DiffServ コードポイント (DSCP) 値に基づいてトラフィックを分類します。
 - IP リアルタイムプロトコル：リアルタイムアプリケーションで使用されるポート番号に基づいてトラフィックを分類します。

- 優先順位：IP ヘッダーのタイプ オブ サービス (ToS) フィールドの優先順位値に基づいてトラフィックを分類します。
- ポリシー：一致したトラフィックで実行されるアクションは次のとおりです。



(注) このポリシーは、システムまたは任意のインターフェイスに追加できます。このポリシーは入力トラフィックだけに適用されます。

- QoS グループ：このトラフィック フローがマッピングされたシステム クラスに対応する QoS グループを設定します。
 - Cisco Nexus デバイスのサポート対象は次のとおりです。
 - 5 つの QoS グループ
 - ユニキャスト用に 5 個のキュー
 - マルチキャスト用に 5 個のキュー

MTU

Cisco Nexus デバイスは、すべてのポートのすべてのクラスに対して 1 MTU をサポートします。MTU を設定する場合は、次の注意事項に従ってください。

- Cisco Nexus デバイスでは、MTU はクラス デフォルトで設定された値によって制御されます。すべてのクラスで同じ MTU を設定する必要があります。
- **system jumbomtu** コマンドを入力すると、システム内の MTU の上限が定義されます。システム ジャンボ MTU のデフォルト値は 9216 バイトです。最小 MTU は 1500 バイトで、最大 MTU は 9216 バイトです。
- システム クラス MTU はクラス内のすべてのパケットの MTU を設定します。システム クラス MTU を、グローバル ジャンボ MTU よりも大きく設定できません。
- デフォルトのシステム クラスのデフォルト MTU は 1500 バイトです。この値は設定できません。
- 1 つのレイヤ 3 のインターフェイスまたはレイヤ 3 インターフェイス範囲に対して、MTU 値を指定することができます。レイヤ 3 インターフェイスの MTU 値をジャンボ MTU 値 (1500 バイト以上) に変更すると、ネットワーク QoS MTU 値を 1500 バイト以上に変更しなければなりません。デバイスはこの要件を通知する syslog メッセージを生成します。

信頼境界

信頼境界は、次のように着信インターフェイスによって実行されます。

- デフォルトでは、すべてのイーサネットインターフェイスは信頼できるインターフェイスです。マーキングが設定されている場合を除き、802.1p CoS および DSCP は保持されます。CoS および DSCP のデフォルトのキューマッピングはありません。これらのマッピングを作成するポリシーを定義し、適用できます。デフォルトでは、ユーザ定義のポリシーがない場合、すべてのトラフィックがデフォルト キューに割り当てられます。
- 802.1p CoS 値でタグ付けされていないパケットは、デフォルトのドロップシステムクラスに分類されます。タグなしパケットがトランク上で送信される場合、このパケットにはデフォルトのタグなし CoS 値 0 がタグ付けされます。
- イーサネット インターフェイスまたはポート チャネルのデフォルトのタグなし Cos 値は上書きできます。
- イーサネット インターフェイスまたはポート チャネル インターフェイスのデフォルトのタグなし Cos 値を上書きするには、**untagged cos cos-value** コマンドを使用します。
- イーサネットまたはレイヤ 3 インターフェイスまたはポート チャネル インターフェイスのデフォルトのタグなし CoS 値を上書きするには、**untagged cos cos-value** コマンドを使用します。

システムがタグなし CoS 値を適用しても、QoS は、CoS 値がタグ付けされたシステムに入るパケットと同様に機能します。

入力分類ポリシー

分類は、トラフィックをクラスに区別するのに使用します。トラフィックは、ポート特性 (CoS フィールド) またはパケット ヘッダー フィールドに基づいて分類します。パケット ヘッダー フィールドには、IP precedence、DiffServ コード ポイント (DSCP)、レイヤ 2 からレイヤ 4 までのパラメータが含まれます。トラフィックの分類に使用する値を、一致基準と呼びます。トラフィック クラスを定義する場合、複数の一致基準を指定することも、一部または全部の基準を照合することによってトラフィック クラスを決定することもできます。

どのクラスにも一致しないトラフィックは、**class-default** と呼ばれるデフォルトのトラフィック クラスに割り当てられます。

出力キューイング ポリシー

出力ポリシーマップをイーサネットインターフェイスにアソシエートし、指定されたトラフィック クラスの帯域幅を保証したり、出力キューを設定したりできます。

帯域割り当ての制限は、インターフェイス上のすべてのトラフィックに適用されます。

イーサネットインターフェイスごとに最大5つのキュー（システムクラスごとに1つ）をサポートします。キューには次のデフォルト設定があります。

- これらのキューに加え、CPUに転送される制御トラフィックは完全プライオリティキューを使用します。ユーザ設定ではこのキューにはアクセスできません。
- デフォルトのドロップシステムクラスの標準イーサネットトラフィックにキューが割り当てられます。このキューは、帯域幅の100%でWRRスケジューリングを使用します。

システムクラスを追加すると、キューがクラスに割り当てられます。影響を受けたすべてのインターフェイスで帯域割り当てを再設定する必要があります。帯域幅は、自動的にユーザ定義のシステムクラス専用にはなりません。

完全プライオリティキューを設定できます。このキューは、制御トラフィックキュー（データトラフィックではなく制御トラフィックを送信）以外の他のすべてのキューより先に処理されます。

CPU 方向のトラフィックの QoS

デバイスは、CPUでパケットがフラグディングしないように、CPU方向のトラフィックに自動的にQoSポリシーを適用します。ブリッジプロトコルデータユニット（BPDU）フレームなどの制御トラフィックには、確実に配信できるように、より高いプライオリティが与えられます。

QoS 設定の注意事項と制限事項

最適なスイッチパフォーマンスを維持するには、システムクラスおよびポリシーの設定時に次の注意事項に従ってください。

- スイッチリソース（バッファ、仮想出力キュー、および出力キューなど）は、デフォルトクラスおよびユーザ設定のシステムクラスに基づいて分割されます。Cisco NX-OSは、設定済みシステムクラスに合わせて自動的にリソース割り当てを調整します。
- ポートチャネルを設定すると、ポートチャネルに設定されたサービスポリシーは、すべてのメンバインターフェイスに適用されます。
- デフォルトでは、キュー6および7はコントロールプレーントラフィック、キュー5はSPANトラフィックのために予約されています。そのため、デフォルトクラスとともに4個のクラスを設定できます。

システム クラスの設定

クラス マップの設定

class-map コマンドを使用して、クラス マップを作成または変更できます。クラス マップは、トラフィックのクラスを表す名前付きオブジェクトです。クラスマップでは、パケットを分類する一致基準を指定します。以降は、クラスマップをポリシーマップで参照できるようになります。



(注) クラスマップタイプのデフォルトは **type qos** で、その一致基準のデフォルトは **match-all** です。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# class-map [type {network-qos qos queuing}] class-map name</code>	<p>指定されたトラフィックのクラスを表す名前付きオブジェクトを作成するか、名前付きオブジェクトにアクセスします。</p> <p>クラス マップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができます。クラス マップ名は大文字と小文字が区別され、最大 40 文字まで設定できます。</p> <p>次のように 3 つのクラスマップ コンフィギュレーション モードがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • network-qos : ネットワーク全体 (グローバル) モード。CLI プロンプト : <code>switch (config-cmap-nq)#</code> • qos : 分類モード。これがデフォルト モードです。CLI プロンプト : <code>switch (config-cmap-qos)#</code> • queuing : キューイング モード。CLI プロンプト : <code>switch(config-cmap-que)#</code>
ステップ 3	<code>switch(config)# class-map [type qos] [match-all match-any] class-map name</code>	<p>(任意)</p> <p>パケットがクラス マップに定義された基準の一部またはすべてを満たす必要があることを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • match-all : パケットが、指定した class map に定義されているすべての基準を満たす場合 (たとえば、定義された

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>CoS と ACL 基準の両方が一致する場合)、トラフィックを分類します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • match-any : パケットが、指定した class map に定義されているいずれかの基準を満たす場合 (たとえば、CoS または ACL の基準のいずれかが一致する場合)、トラフィックを分類します。 <p>クラス マップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができます。クラス マップ名は大文字と小文字が区別され、最大 40 文字まで設定できます。</p>
ステップ 4	switch(config)# no class-map [type {network-qos qos queuing}] class-name	<p>(任意) 指定されたクラス マップを削除します。</p> <p>(注) システム定義のクラス マップ (class-default) は削除できません。</p> <p>クラス マップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができます。クラス マップ名は大文字と小文字が区別され、最大 40 文字まで設定できます。</p>

ACL 分類の設定

既存のアクセスコントロールリスト (ACL) に基づいたパケットの照合により、トラフィックを分類できます。ACL で定義された基準によってトラフィックが分類されます。ACL キーワードの **permit** および **deny** は、照合時には無視されます。アクセスリストの一致基準に **deny** アクションが含まれる場合でも、そのクラスの照合では使用されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# class-map type qos class-name	トラフィックのクラスを表す名前付きオブジェクトを作成します。クラス マップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができます。クラス マップ名は大文字と小文字が区別され、最大 40 文字まで設定できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	switch(config-cmap-qos)# match access-group name <i>acl-name</i>	<i>acl-name</i> に基づいてパケットを照合することによって、トラフィック クラスを設定します。ACL キーワードの permit および deny は、照合時には無視されます。 (注) 1 つのクラス マップで定義できる ACL は 1 つだけです。 match access-group が定義されたクラスには、その他の一致基準を追加できません。
ステップ 4	switch(config-cmap-qos)# no match access-group name <i>acl-name</i>	(任意) 一致するトラフィックをトラフィック クラスから削除します。

次に、既存の ACL に基づいたパケットの照合により、トラフィックを分類する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# class-map type qos class_acl
switch(config-cmap-qos)# match access-group name acl-01
```

ACL のクラス マップ設定を表示するには、**show class-map** コマンドを使用します。

```
switch# show class-map class_acl
```

CoS 分類の設定

IEEE 802.1Q ヘッダー内のサービスクラス (CoS) フィールドに基づいてトラフィックを分類できます。この 3 ビットのフィールドは IEEE 802.1p で QoS トラフィック クラスをサポートするために規定されています。CoS は Virtual Local Area Network (VLAN; バーチャル LAN) ID タグフィールドの上位 3 ビットで符号化され、*user_priority* と呼ばれます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# class-map type qos class-name	トラフィックのクラスを表す名前付きオブジェクトを作成します。クラス マップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができます。クラス マップ名は大文字と小文字が区別され、最大 40 文字まで設定できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<code>switch(config-cmap-qos)# match cos cos-value</code>	パケットをこのクラスに分類する場合に照合する CoS 値を指定します。CoS 値は、0 ~ 7 の範囲で設定できます。
ステップ 4	<code>switch(config-cmap-qos)# no match cos cos-value</code>	(任意) 一致するトラフィックをトラフィック クラスから削除します。

次の例は、定義された CoS 値に基づいてパケットを照合することにより、トラフィックを分類する方法を示しています。

```
switch# configure terminal
switch(config)# class-map type qos match-any class_cos
switch(config-cmap-qos)# match cos 4, 5-6
```

CoS 値のクラス マップ設定を表示するには、`show class-map` コマンドを使用します。

```
switch# show class-map class_cos
```

DSCP 分類の設定

IP ヘッダーの DiffServ フィールドにある DiffServ コードポイント (DSCP) 値に基づいてトラフィックを分類できます。

表 1: 標準の DSCP 値

値	DSCP 値のリスト
af11	AF11 dscp (001010) : 10 進数の 10
af12	AF12 dscp (001100) : 10 進数の 12
af13	AF13 dscp (001110) : 10 進数の 14
af21	AF21 dscp (010010) : 10 進数の 18
af22	AF22 dscp (010100) : 10 進数の 20
af23	AF23 dscp (010110) : 10 進数の 22
af31	AF31 dscp (011010) : 10 進数の 26
af32	AF32 dscp (011100) : 10 進数の 28
af33	AF33 dscp (011110) : 10 進数の 30

値	DSCP 値のリスト
af41	AF41 dscp (100010) : 10 進数の 34
af42	AF42 dscp (100100) : 10 進数の 36
af43	AF43 dscp (100110) : 10 進数の 38
cs1	CS1 (優先順位 1) dscp (001000) : 10 進数の 8
cs2	CS2 (優先順位 2) dscp (010000) : 10 進数の 16
cs3	CS3 (優先順位 3) dscp (011000) : 10 進数の 24
cs4	CS4 (優先順位 4) dscp (100000) : 10 進数の 32
cs5	CS5 (優先順位 5) dscp (101000) : 10 進数の 40
cs6	CS6 (優先順位 6) dscp (110000) : 10 進数の 48
cs7	CS7 (優先順位 7) dscp (111000) : 10 進数の 56
default	デフォルト dscp (000000) : 10 進数の 0
ef	EF dscp (101110) : 10 進数の 46

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# class-map type qos class-name	トラフィックのクラスを表す名前付きオブジェクトを作成します。クラスマップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができます。クラス マップ名は大文字と小文字が区別され、最大 40 文字まで設定できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<code>switch(config-cmap-qos)# match dscp dscp-list</code>	<i>dscp-list</i> 変数の値に基づいて、パケットの照合によってトラフィック クラスを設定します。DSCP 値の一覧については、標準の DSCP 値の表を参照してください。
ステップ 4	<code>switch(config-cmap-qos)# no match dscp dscp-list</code>	(任意) 一致するトラフィックをトラフィック クラスから削除します。DSCP 値の一覧については、標準の DSCP 値の表を参照してください。

次の例は、IP ヘッダーの DiffServ フィールドの DSCP 値に基づいてパケットを照合することにより、トラフィックを分類する方法を示しています。

```
switch# configure terminal
switch(config)# class-map type qos match-any class_dscp
switch(config-cmap-qos)# match dscp af21, af32
```

DSCP のクラス マップ設定を表示するには、**show class-map** コマンドを使用します。

```
switch# show class-map class_dscp
```

IP RTP 分類の設定

IP Real-time Transport Protocol (RTP) は、オーディオやビデオなどのデータを送信するリアルタイムアプリケーション用のトランスポートプロトコルで、Request For Comments (RFC) 3550 で規定されています。RTP では一般的な TCP ポートや UDP ポートは使用されませんが、通常はポート 16384 ~ 32767 を使用するように RTP を設定します。偶数ポートを UDP 通信に使用し、次の上位の奇数ポートを RTP Control Protocol (RTCP) 通信に使用します。

UDP ポート範囲に基づいて分類できます。UDP ポート範囲は、RTP を使用するアプリケーションを対象とする可能性があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# class-map type qos class-name</code>	トラフィックのクラスを表す名前付きオブジェクトを作成します。クラスマップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができます。クラスマップ名は大文字と小文字が区別され、最大 40 文字まで設定できます。
ステップ 3	<code>switch(config-cmap-qos)# match ip rtp port-number</code>	UDP ポート番号の下限と上限に基づいてパケットを照合することによって、トラフィック クラスを設定します。UDP ポート番号の範囲は、RTP を使用する

	コマンドまたはアクション	目的
		アプリケーションを対象とする可能性があります。値の範囲は 2000 ~ 65535 です。
ステップ 4	<code>switch(config-cmap-qos)# no match ip rtp port-number</code>	(任意) 一致するトラフィックをトラフィック クラスから削除します。

次の例は、RTP アプリケーションで一般に使用される UDP ポート範囲に基づいてパケットを照合することにより、トラフィックを分類する方法を示しています。

```
switch# configure terminal
switch(config)# class-map type qos match-any class_rtp
switch(config-cmap-qos)# match ip rtp 2000-2100, 4000-4100
```

RTP のクラス マップ設定を表示するには、`show class-map` コマンドを使用します。

```
switch# show class-map class_rtp
```

Precedence 分類の設定

IP ヘッダーのサービス タイプ (ToS) バイトフィールドの優先順位値に基づいてトラフィックを分類できます。次の表に、優先順位値を示します。

表 2: 優先順位値

値	優先順位値の一覧
<0-7>	IP precedence 値
critical	クリティカル precedence (5)
flash	フラッシュ precedence (3)
flash-override	フラッシュ上書き precedence (4)
immediate	即時 precedence (2)
internet	インターネットワーク コントロール precedence (6)
network	ネットワーク コントロール precedence (7)
priority	優先 precedence (1)

値	優先順位値の一覧
routine	ルーチン precedence (0)

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# class-map type qos match-any class-name	トラフィックのクラスを表す名前付きオブジェクトを作成します。クラスマップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができます。クラスマップ名は大文字と小文字が区別され、最大 40 文字まで設定できます。
ステップ 3	switch(config-cmap-qos)# match precedence precedence-values	優先順位値に基づいたパケットの照合により、トラフィック クラスを設定します。優先順位値の一覧については、優先順位値の表を参照してください。
ステップ 4	switch((config-cmap-qos)# no match precedence precedence-values	(任意) 一致するトラフィックをトラフィック クラスから削除します。優先順位値の一覧については、優先順位値の表を参照してください。

次の例は、IP ヘッダーの ToS バイトの優先順位値に基づいてパケットを照合することにより、トラフィックを分類する方法を示しています。

```
switch# configure terminal
switch(config)# class-map type qos match-any class_precedence
switch(config-cmap-qos)# match precedence 1-2, critical
```

IP precedence 値のクラス マップ設定を表示するには、**show class-map** コマンドを使用します。

```
switch# show class-map class_precedence
```

ポリシーマップの作成

policy-map コマンドを使用して、トラフィック クラスのセットに適用されるポリシーのセットを表す名前付きオブジェクトを作成します。

デバイスのデフォルトのシステム クラスは 1 つで、ベストエフォート型サービス用のドロップ クラス (**class-default**) です。イーサネットトラフィックには最大 4 つの追加システム クラスを定義できます。

次の事前定義ポリシー マップがデフォルトのサービス ポリシーとして使用されます。

- network-qos : default-nq-policy
- 入力 qos : default-in-policy
- 出力キューイング : default-out-policy

ポリシーマップを作成して、任意のユーザ定義のクラスにポリシーを指定する必要があります。このポリシー マップで、各クラスに QoS パラメータを設定できます。同じポリシー マップを使用して、デフォルト クラスの設定を変更できます。

デバイスは、接続されたネットワークアダプタにすべてのポリシーマップ設定値を配布します。

はじめる前に

ポリシー マップを作成する前に、新しいシステム クラスごとにクラス マップを定義します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# policy-map [type {network-qos qos queuing}] <i>policy-name</i>	<p>トラフィック クラスのセットに適用されるポリシーのセットを表す名前付きオブジェクトを作成します。ポリシー マップ名は、最大 40 文字の英字、ハイフン、または下線文字を使用でき、大文字と小文字が区別されません。</p> <p>次のように 3 つのポリシーマップ コンフィギュレーション モードがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • network-qos : ネットワーク全体 (グローバル) モード。CLI プロンプト : switch(config-pmap-nq)# • qos : 分類モード。これがデフォルト モードです。CLI プロンプト : switch(config-pmap-qos)# • queuing : キューイング モード。CLI プロンプト : switch(config-pmap-que)#
ステップ 3	switch(config)# no policy-map [type {network-qos qos queuing}] <i>policy-name</i>	(任意) 指定されたポリシー マップを削除します。
ステップ 4	switch(config-pmap)# class [type {network-qos qos queuing}] <i>class-name</i>	<p>クラス マップをポリシー マップにアソシエートし、指定されたシステム クラスのコンフィギュレーション モードを開始します。次のように 3 つのクラス マップ コンフィギュレーション モードがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • network-qos : ネットワーク全体 (グローバル) モード。CLI プロンプト : switch(config-pmap-c-nq)#

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • qos : 分類モード。これがデフォルトモードです。 CLI プロンプト : <code>switch(config-pmap-c-qos)#</code> • queuing : キューイングモード。CLI プロンプト : <code>switch(config-pmap-c-que)#</code> <p>(注) アソシエートされるクラスマップには、ポリシーマップタイプと同じタイプが必要です。</p>
ステップ 5	<code>switch(config-pmap)# no class [type {network-qos qos queuing}] class-name</code>	(任意) クラスマップの関連付けを削除します。

type qos ポリシーの設定

一意の qos グループ値で識別される特定のシステムクラスのトラフィックを分類するには、type qos ポリシーを使用します。タイプ qos ポリシーは、入力トラフィックに関してのみ、システムまたは個々のインターフェイスに追加できます。

入力トラフィックには最大 5 つの QoS グループを設定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# policy-map type qos policy-name</code>	トラフィック クラスのセットに適用されるポリシーのセットを表す名前付きオブジェクトを作成します。ポリシーマップ名は、最大 40 文字の英字、ハイフン、または下線文字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	<code>switch(config-pmap-qos)# [class class-default] type qos class-name</code>	クラスマップをポリシーマップにアソシエートし、指定されたシステムクラスのコンフィギュレーションモードを開始します。 (注) アソシエートされるクラスマップには、ポリシーマップタイプと同じタイプが必要です。
ステップ 4	<code>switch(config-pmap-c-qos)# set qos-group qos-group-value</code>	トラフィックをこのクラスマップに分類する場合に照合する 1 つまたは複数の qos-group 値を設定しま

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>す。次のリストに、<i>qos-group-value</i> の範囲を示します。デフォルト値はありません。</p> <p>(注) スイッチでサポートできるのは、この範囲内の最大 5 つの QoS グループだけです。</p>
ステップ 5	<code>switch(config-pmap-c-qos)# no set qos-group qos-group-value</code>	<p>(任意)</p> <p>このクラスから qos-group 値を削除します。</p>

次の例は、type qos ポリシー マップを定義する方法を示しています。

```
switch# configure terminal
switch(config)# policy-map type qos policy-s1
switch(config-pmap-qos)# class type qos class-s1
switch(config-pmap-c-qos)# set qos-group 2
```

type network-qos ポリシーの設定

type network-qos ポリシーは、システム qos の結合時だけで設定でき、特定のクラス用にスイッチ全体に適用されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# policy-map type network-qos policy-name</code>	トラフィッククラスのセットに適用されるポリシーのセットを表す名前付きオブジェクトを作成します。ポリシー マップ名は、最大 40 文字の英字、ハイフン、または下線文字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	<code>switch(config-pmap-nq)# class type network-qos class-name</code>	<p>クラス マップをポリシー マップにアソシエートし、指定されたシステムクラスのコンフィギュレーション モードを開始します。</p> <p>(注) アソシエートされるクラスマップには、ポリシーマップタイプと同じタイプが必要です。</p>
ステップ 4	<code>switch(config-pmap-c-nq)# mtu mtu-value</code>	<p>MTU 値をバイト単位で指定します。</p> <p>(注) 設定する <i>mtu-value</i> は、system jumbomtu コマンドで設定した値より小さくする必要があります。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	switch(config-pmap-c-nq)# no mtu	(任意) このクラスの MTU 値をリセットします。
ステップ 6	switch(config-pmap-c-nq)# set cos cos-value	このインターフェイスでパケットのマーキングに使用する 802.1Q CoS 値を指定します。値の範囲は 0 ~ 7 です。
ステップ 7	switch(config-pmap-c-nq)# no set cos cos-value	(任意) このクラスのマーキング動作をディセーブルにします。

次の例は、type network-qos ポリシー マップを定義する方法を示しています。

```
switch# configure terminal
switch(config)# policy-map type network-qos policy-que1
switch(config-pmap-nq)# class type network-qos class-que1
switch(config-pmap-c-nq)# mtu 5000
switch(config-pmap-c-nq)# set cos 4
```

type queuing ポリシーの設定

type queuing ポリシーを使用して、特定のシステムクラスのトラフィックをスケジューリングおよびバッファリングします。type queuing ポリシーは QoS グループで識別され、入力または出力トラフィック用にシステムまたは個々のインターフェイスに追加できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# policy-map type queuing policy-name	トラフィッククラスのセットに適用されるポリシーのセットを表す名前付きオブジェクトを作成します。ポリシーマップ名は、最大 40 文字の英字、ハイフン、または下線文字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	switch(config-pmap-que)# class type queuing class-name	クラスマップをポリシーマップにアソシエートし、指定されたシステムクラスのコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	switch(config-pmap-c-que)# bandwidth percent percentage	このクラスに割り当てられたインターフェイスの保証帯域幅の割合を指定します。デフォルトでは、クラスの帯域幅は指定されていません。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) 帯域幅をクラスに正常に割り当てるには、まず <code>class-default</code> および <code>class-fcoe</code> で帯域幅のデフォルト設定を下げる必要があります。
ステップ 5	<code>switch(config-pmap-c-que)# no bandwidth percent percentage</code>	(任意) 帯域幅の指定をこのクラスから削除します。
ステップ 6	<code>switch(config-pmap-c-que)# priority</code>	このクラスの該当するトラフィックが完全プライオリティキューにマッピングされるよう指定します。 (注) 完全プライオリティを設定できるクラスは、各ポリシーマップで1つだけです。
ステップ 7	<code>switch(config-pmap-c-que)# no priority</code>	(任意) 完全プライオリティキューイングをこのクラスのトラフィックから削除します。

次の例は、type queuing ポリシー マップを定義する方法を示しています。

```
switch# configure terminal
switch(config)# policy-map type queuing policy-queue1
switch(config-pmap-que)# class type queuing class-queue1
switch(config-pmap-c-que)# bandwidth 20
```

マーキングについて

マーキングは、着信および発信パケットの QoS フィールドを変更するために使用する方式です。マーキングのコマンドは、ポリシーマップ内で参照されるトラフィッククラスで使用できます。設定できるマーキング機能を次に示します。

- DSCP
- IP precedence
- CoS

CoS マーキングの設定

CoS フィールドの値は、IEEE 802.1Q ヘッダーの VLAN ID タグ フィールドの上位 3 ビットに記録されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # policy-map [type network-qos] <i>policy-map name</i>	<i>policy-map-name</i> という名前のポリシー マップを作成するか、そのポリシー マップにアクセスし、ポリシー マップ モードを開始します。 ポリシー マップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができます。ポリシー マップ名は大文字と小文字が区別され、最大 40 文字まで設定できます。
ステップ 3	switch(config-pmap-nq) # class [type network-qos] { <i>class-map name</i> class-default }	<i>class-map-name</i> への参照を作成し、ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。 ポリシー マップ内のクラスと現在一致していないトラフィックをすべて選択するには、 class-default キーワードを使用します。
ステップ 4	switch(config-pmap-c-nq) # set cos <i>cos-value</i>	CoS 値を <i>cos-value</i> に指定します。 <i>cos-value</i> 値は、0 ~ 7 の範囲で指定します。 (注) このコマンドは、出力ポリシーに対してのみサポートされます。

DSCP マーキングの設定

IP ヘッダーの DiffServ フィールドの上位 6 ビットで、DSCP 値を指定の値に設定できます。下の表に示す標準の DSCP 値のほか、0 ~ 60 の数値も入力できます。



(注) DSCP と IP precedence のいずれかの値は設定できますが、IP パケットの同じフィールドを変更するため、両方の値は設定できません。

表 3: 標準の DSCP 値

値	DSCP 値のリスト
af11	AF11 dscp (001010) : 10 進数の 10
af12	AF12 dscp (001100) : 10 進数の 12

値	DSCP 値のリスト
af13	AF13 dscp (001110) : 10 進数の 14
af21	AF21 dscp (010010) : 10 進数の 18
af22	AF22 dscp (010100) : 10 進数の 20
af23	AF23 dscp (010110) : 10 進数の 22
af31	AF31 dscp (011010) : 10 進数の 26
af32	AF40 dscp (011100) : 10 進数の 28
af33	AF33 dscp (011110) : 10 進数の 30
af41	AF41 dscp (100010) : 10 進数の 34
af42	AF42 dscp (100100) : 10 進数の 36
af43	AF43 dscp (100110) : 10 進数の 38
cs1	CS1 (優先順位 1) dscp (001000) : 10 進数の 8
cs2	CS2 (優先順位 2) dscp (010000) : 10 進数の 16
cs3	CS3 (優先順位 3) dscp (011000) : 10 進数の 24
cs4	CS4 (優先順位 4) dscp (100000) : 10 進数の 32
cs5	CS5 (優先順位 5) dscp (101000) : 10 進数の 40
cs6	CS6 (優先順位 6) dscp (110000) : 10 進数の 48
cs7	CS7 (優先順位 7) dscp (111000) : 10 進数の 56
default	デフォルト dscp (000000) : 10 進数の 0
ef	EF dscp (101110) : 10 進数の 46

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>config t</code>	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>policy-map type qos qos-policy-map-name</code>	<code>policy-map-name</code> という名前のポリシーマップを作成するか、そのポリシーマップにアクセスし、ポリシーマップモードを開始します。ポリシーマップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができます。ポリシーマップ名は大文字と小文字が区別され、最大 40 文字まで設定できます。
ステップ 3	<code>class [type qos] {class-map-name class-default}</code>	<code>class-map-name</code> への参照を作成し、ポリシーマップ クラス コンフィギュレーション モードを開始します。ポリシーマップ内のクラスと現在一致していないトラフィックをすべて選択するには、 <code>class-default</code> キーワードを使用します。
ステップ 4	<code>set dscp dscp-value</code>	DSCP 値を <code>dscp-value</code> に設定します。標準の DSCP 値の表を参照してください。

次に、ポリシー マップ設定の表示方法例を示します。

```
switch# show policy-map policy1
```

IP precedence マーキングの設定

IP precedence のフィールドの値を、IP ヘッダーの IPv4 サービス タイプ (ToS) フィールドの 0 ~ 2 ビットに設定できます。次の表に、優先順位値を示します。



(注) IP precedence と DSCP のいずれかの値は設定できますが、IP パケットの同じフィールドを変更するため、両方の値は設定できません。

表 4: 優先順位値

値	優先順位値の一覧
<0-7>	IP precedence 値
critical	クリティカル precedence (5)

値	優先順位値の一覧
flash	フラッシュ precedence (3)
flash-override	フラッシュ上書き precedence (4)
immediate	即時 precedence (2)
internet	インターネットワーク コントロール precedence (6)
network	ネットワーク コントロール precedence (7)
priority	優先 precedence (1)
routine	ルーチン precedence (0)

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>config t</code>	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>policy-map [type qos] qos-policy-map-name</code>	<code>policy-map-name</code> という名前のポリシーマップを作成するか、そのポリシーマップにアクセスし、ポリシーマップモードを開始します。ポリシーマップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができます。ポリシーマップ名は大文字と小文字が区別され、最大 40 文字まで設定できます。
ステップ 3	<code>class [type qos] {class-map-name class-default}</code>	<code>class-map-name</code> への参照を作成し、ポリシーマップクラス コンフィギュレーション モードを開始します。ポリシーマップ内のクラスと現在一致していないトラフィックをすべて選択するには、 <code>class-default</code> キーワードを使用します。
ステップ 4	<code>set precedence precedence-value</code>	IP precedence 値を <code>precedence-value</code> に設定します。優先順位値の表に示す値のいずれか 1 つを入力できます。

次の例では、precedence マーキングを 5 に設定する方法を示します。

```
switch(config)# policy-map type qos my_policy
switch(config-pmap-qos)# class type qos my class
switch(config-pmap-c-qos)# set precedence 5
switch(config-pmap-c-qos)#
```

システム サービス ポリシーの追加

service-policy コマンドは、システムのサービス ポリシーとしてシステム クラス ポリシー マップを指定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# system qos	システム クラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-sys-qos)# service-policy type { network-qos [input output] qos input queuing output } <i>policy-name</i>	<p>ポリシーマップをシステムのサービスポリシーとして使用するよう指定します。3つのポリシーマップコンフィギュレーションモードがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • network-qos : ネットワーク全体 (system qos) モード。 • qos : 分類モード (システム qos の input またはインターフェイスの input のみ) 。 • queuing : キューイングモード (システム qos およびインターフェイスの output) 。 <p>(注) デフォルトのポリシーマップコンフィギュレーションモードはありません。 type を指定してください。 input キーワードは、そのポリシーマップがインターフェイスの受信トラフィックに適用されることを示します。 output キーワードは、そのポリシーマップがインターフェイスの送信トラフィックに適用されることを示します。 qos ポリシーには input だけを、queuing ポリシーには output だけを適用できます。</p>

デフォルト システム サービス ポリシーの復元

新しいポリシーを作成して、それをシステム QoS コンフィギュレーションに追加した場合、コマンドの **no** フォームを入力して、デフォルト ポリシーを再適用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# system qos	システム クラス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-sys-qos)# no service-policy type qos input <i>policy-map name</i>	分類モードのポリシーマップをリセットします。このポリシーマップ設定はシステム qos 入力またはインターフェイス入力のみを使用します。
ステップ 4	switch(config-sys-qos)# no service-policy type network-qos <i>policy-map name</i>	ネットワーク全体のポリシーマップをリセットします。
ステップ 5	switch(config-sys-qos)# no service-policy type queuing output <i>policy-map name</i>	出力キューイングモードのポリシーマップをリセットします。

```
switch# configure terminal
switch(config)# system qos
switch(config-sys-qos)# no service-policy type qos input my-in-policy
switch(config-sys-qos)# no service-policy type network-qos my-nq-policy
switch(config-sys-qos)# no service-policy type queuing output my-out-policy
```

ジャンボ MTU のイネーブル化

スイッチ全体のジャンボ MTU は、デフォルトのイーサネットシステムクラス (class-default) のポリシーマップで MTU を最大サイズ (9216 バイト) に設定することによって、イネーブルにできます。



(注) Cisco Nexus デバイスは、すべてのポートのすべてのクラスに対して 1 MTU をサポートしません。

次の例は、ジャンボ MTU をサポートするようにデフォルトのイーサネットシステムクラスを設定する方法を示しています。

```
switch(config)# policy-map type network-qos jumbo
switch(config-pmap-nq)# class type network-qos class-default
switch(config-pmap-c-nq)# mtu 9216
switch(config-pmap-c-nq)# exit
switch(config-pmap-nq)# exit
switch(config)# system qos
switch(config-sys-qos)# service-policy type network-qos jumbo
```



(注) **system jumbomtu** コマンドは、スイッチの最大 MTU サイズを定義します。ただし、ジャンボ MTU は MTU が設定されたシステム クラスだけにサポートされます。

ジャンボ MTU の確認

Cisco Nexus デバイスでは、トラフィックは 8 種類の QoS グループの 1 つに分類され、MTU は QoS グループ レベルで設定されます。Cisco Nexus デバイスは異なる QoS グループで異なる MTU 値をサポートするため、インターフェイスごとに 1 つの値で MTU を表すことはできません。デフォルトでは、すべてのイーサネットトラフィックは、QoS グループ 0 にあります。そのため、イーサネットトラフィックに対するジャンボ MTU を確認するには、**show queuing interface ethernet slot/chassis_number** コマンドを使用し、QoS グループ 0 の [HW MTU] フィールドが 9216 であることを確認します。**show interface** コマンドは、予測値である MTU 値 1500 を常に表示します。

次に、Ethernet 1/19 のジャンボ MTU 情報を表示する例を示します。

```
switch# sh queuing int e1/19
Ethernet1/19 queuing information:
  TX Queuing
    qos-group sched-type oper-bandwidth
      0        WRR          50
      1        WRR          50

  RX Queuing
    qos-group 0
    q-size: 243200, HW MTU: 9280 (9216 configured)
    drop-type: drop, xon: 0, xoff: 1520
    Statistics:
      Pkts received over the port          : 2119963420
      Ucast pkts sent to the cross-bar     : 2115648336
      Mcast pkts sent to the cross-bar     : 4315084
      Ucast pkts received from the cross-bar : 2592447431
      Pkts sent to the port                : 2672878113
      Pkts discarded on ingress            : 0
      Per-priority-pause status            : Rx (Inactive), Tx (Inactive)

    qos-group 1
    q-size: 76800, HW MTU: 2240 (2158 configured)
    drop-type: no-drop, xon: 128, xoff: 240
    Statistics:
      Pkts received over the port          : 0
      Ucast pkts sent to the cross-bar     : 0
      Mcast pkts sent to the cross-bar     : 0
      Ucast pkts received from the cross-bar : 0
      Pkts sent to the port                : 0
      Pkts discarded on ingress            : 0
      Per-priority-pause status            : Rx (Inactive), Tx (Inactive)

  Total Multicast crossbar statistics:
    Mcast pkts received from the cross-bar : 80430744
```

インターフェイスでの QoS の設定

タグなし CoS の設定

802.1p CoS 値でタグ付けされていない着信パケットは、デフォルトのタグなし CoS 値 (0) に割り当てられます (これはデフォルトのイーサネット ドロップ システム クラスにマッピングされます)。イーサネットまたは EtherChannel インターフェイスのデフォルトのタグなし Cos 値は上書きできます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# interface {ethernet [chassis/]slot/port port-channel channel-number}	指定されたインターフェイスまたはポートチャネルのコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-if)# no switchport	(任意) レイヤ 3 インターフェイスを選択します。
ステップ 4	switch(config-if)# untagged cos cos-value	タグなし CoS 値を設定します。指定できる値は 1 ~ 7 です。

次に、インターフェイスで受信するタグなしフレームに CoS 値 4 を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# untagged cos 4
```

次に、レイヤ 3 インターフェイスで受信するタグなしフレームに CoS 値 3 を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/5
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# untagged cos 3
switch(config-if)#
```

バッファとキューの設定

マルチキャストの低速受信ポートの設定

10 ギガバイト ポートおよび 1 ギガバイト ポートが混在する場合、1 ギガバイト ポートが 10 ギガバイト ポートをブロックすることによる影響を減らすために、1 ギガバイト ポートでこのコマンドを使用できます。1 ギガバイト ポートでの低速受信が原因で 10 ギガバイト ポートでヘッドオブラインブロッキング (HOLB) が発生する場合に限り、1 ギガバイト ポートでこのコマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# hardware profile multicast slow-receiver port {all port port-number}	すべての 1 ギガバイト ポートまたは指定した 1 ギガバイト ポートを低速受信ポートとして設定し、それらが 10 ギガバイト ポートをブロックしないようにします。
ステップ 3	switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、ポート 46 をマルチキャスト低速受信ポートとして設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# hardware profile multicast slow-receiver port 46
switch(config)# copy running-config startup-config
```

特定の QoS グループまたは仮想レーンに使用するバッファの割合の設定

特定の QoS グループまたは仮想レーン (VL) に使用する共有バッファの割合を設定できます

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch# hardware profile buffer qosgroup number threshold percentage	特定の QoS グループのバッファを設定します。 <i>number</i> 引数は、QoS グループ番号を指定します。指定できる範囲は 0～4 です。 <i>percentage</i> 引数は、最大使用率を指定します。範囲は 1～100 です。
ステップ 3	switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、QoS グループ 1 の共有バッファの使用率を最大 40% に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# hardware profile buffer qosgroup 1 threshold 40
switch(config)# copy running-config startup-config
```

SPAN トラフィックに使用するバッファの割合の設定

SPAN トラフィックに使用される共有バッファの割合を設定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch# hardware buffer span-threshold percentage	SPAN トラフィックのハードウェア バッファの最大使用率を設定します。 <i>percentage</i> の範囲は 0～100 です。
ステップ 3	switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、SPAN トラフィックのハードウェア バッファを 30% に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# hardware buffer span-threshold 30
switch(config)# copy running-config startup-config
```

QoS 設定の確認

QoS 設定を確認するには、次の作業の 1 つを実行します。

コマンド	目的
switch# show class-map	デバイスで定義されたクラスマップを表示します。
switch# show policy-map [name]	デバイスで定義されたポリシーマップを表示します。指定したポリシーだけを表示することもできます。
switch# show policy-map interface [interface number]	1つまたはすべてのインターフェイスのポリシーマップ設定を表示します。
switch# show policy-map system	システム qos に結合されたポリシーマップ設定を表示します。
switch# show policy-map type {network-qos qos queuing} [name]	特定のポリシー タイプのポリシー マップ設定を表示します。指定したポリシーだけを表示することもできます。
switch# show interface untagged-cos [module number]	すべてのインターフェイスのタグなし CoS 値を表示します。
switch# show wrr-queue cos-map [var]	出力キューにマッピングされた CoS 値を表示します。
switch# running-config ipqos	QoS の実行コンフィギュレーションに関する情報を表示します。
switch# startup-config ipqos	QoS のスタートアップコンフィギュレーションに関する情報を表示します。
switch# show queuing interface ethernet slot-no/port-no	インターフェイスのキューイング情報を表示します。

次に、ネットワーク QoS ポリシーを設定する例を示します。

```
switch(config)# class-map type network-qos cnq1
switch(config-cmap-nq) # match qos-group 1
switch(config-cmap-nq) # exit
switch(config)# class-map type network-qos cnq6
switch(config-cmap-nq) # match qos-group 6
switch(config-cmap-nq) #
switch(config-cmap-nq) # exit
switch(config)# policy-map type network-qos pnpos
switch(config-pmap-nq) # class type network-qos cnq1
switch(config-pmap-nq-c) # set cos 4
switch(config-pmap-nq-c) # exit
switch(config-pmap-nq) # class type network-qos cnq6
switch(config-pmap-nq-c) # set cos 5
switch(config-pmap-nq-c) # congestion-control random-detect ecn
switch(config-pmap-nq-c) # exit
switch(config-pmap-nq) # class type network-qos class-default
switch(config-pmap-nq-c) # mtu 9216
switch(config-pmap-nq-c) # exit
switch(config-pmap-nq) # exit
switch(config)# system qos
switch(config-sys-qos) # service-policy type network-qos pnpos
switch(config-sys-qos) #
```

次に、キューイングポリシーを設定する例を示します。

```
switch(config)# class-map type queuing cq1
switch(config-cmap-que) # match qos-group 1
switch(config-cmap-que) # exit
switch(config)# class-map type queuing cq6
switch(config-cmap-que) # match qos-group 6
switch(config-cmap-que) # exit
switch(config)# policy-map type queuing pqu
switch(config-pmap-que) # class type queuing class-default
switch(config-pmap-c-que) # bandwidth percent 70
switch(config-pmap-c-que) # exit
switch(config-pmap-que) # class type queuing cq1
switch(config-pmap-c-que) # bandwidth percent 10
switch(config-pmap-c-que) # exit
switch(config-pmap-que) # class type queuing cq6
switch(config-pmap-c-que) # bandwidth percent 20
switch(config-pmap-c-que) # exit
switch(config-pmap-que) # exit
switch(config)# system qos
switch(config-sys-qos) # service-policy type queuing output pqu
switch(config-sys-qos) #
```

次に、QoS ポリシーを設定する例を示します。

```
switch(config)# class-map type qos cqos1
switch(config-cmap-qos) # match cos 1
switch(config-cmap-qos) # exit
switch(config)# class-map type qos cqos6
switch(config-cmap-qos) # match cos 6
switch(config-cmap-qos) # exit
switch(config)# policy-map type qos pqos
switch(config-pmap-qos) # class type qos cqos1
switch(config-pmap-c-qos) # set qos-group 1
switch(config-pmap-c-qos) # exit
switch(config-pmap-qos) # class type qos cqos6
switch(config-pmap-c-qos) # set qos-group 6
switch(config-pmap-c-qos) # exit
switch(config-pmap-qos) # exit
switch(config)# system qos
switch(config-sys-qos) # service-policy type qos input pqos
switch(config-sys-qos) #
```

次に、インターフェイス上でタグなし cos の設定を確認する例を示します。

```
switch(config-if) # show interface untagged-cos
=====
```

```

Interface      Untagged-CoS
=====
Ethernet1/1    4
Ethernet1/2
Ethernet1/3    5
Ethernet1/4
Ethernet1/5
Ethernet1/6
Ethernet1/7
Ethernet1/8
Ethernet1/9
Ethernet1/10
Ethernet1/11
Ethernet1/12
Ethernet1/13
Ethernet1/14
Ethernet1/15
Ethernet1/16
Ethernet1/17

```

次に、QoS の実行コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```

switch(config)# show running-config ipqos

!Command: show running-config ipqos
!Time: Mon Mar 15 08:24:12 2010

version 5.0(3)U1(1)
class-map type qos match-all cqos1
  match cos 1
class-map type qos match-all cqos6
  match cos 6
class-map type queuing cqul
  match qos-group 1
class-map type queuing cqu6
  match qos-group 6
policy-map type qos pqos
  class cqos1
    set qos-group 1
  class cqos6
    set qos-group 6
policy-map type queuing pqu
  class type queuing cqul
    bandwidth percent 10
  class type queuing cqu6
    bandwidth percent 20
  class type queuing class-default
    bandwidth percent 70
class-map type network-qos cnq1
  match qos-group 1
class-map type network-qos cnq6
  match qos-group 6
policy-map type network-qos pnqos
  class type network-qos cnq1
    set cos 4
  class type network-qos cnq6
    set cos 5
    congestion-control random-detect ecn
  class type network-qos class-default
    mtu 9216
system qos
  service-policy type qos input pqos
  service-policy type network-qos pnqos
  service-policy type queuing output pqu

interface Ethernet1/1
  untagged cos 4

interface Ethernet1/3
  untagged cos 5

switch(config)#

```

次に、クラス マップ設定を表示する例を示します。

```
switch(config)# show class-map
```

```
Type qos class-maps
=====

class-map type qos match-all cqos1
  match cos 1

class-map type qos match-all cqos6
  match cos 6

class-map type qos match-any class-default
  match any
```

```
Type queuing class-maps
=====

class-map type queuing cqul
  match qos-group 1

class-map type queuing cqu6
  match qos-group 6

class-map type queuing class-default
  match qos-group 0
```

```
Type network-qos class-maps
=====

class-map type network-qos cnq1
  match qos-group 1

class-map type network-qos cnq6
  match qos-group 6

class-map type network-qos class-default
  match qos-group 0
```

```
switch(config)#
```

次に、ポリシー マップ設定を表示する例を示します。

```
switch(config)# show policy-map
```

```
Type qos policy-maps
=====

policy-map type qos pqos
  class type qos cqos1
    set qos-group 1
  class type qos cqos6
    set qos-group 6
  class type qos class-default
    set qos-group 0
policy-map type qos default-in-policy
  class type qos class-default
    set qos-group 0
```

```
Type queuing policy-maps
=====

policy-map type queuing pqu
  class type queuing cqul
    bandwidth percent 10
  class type queuing cqu6
    bandwidth percent 20
```

```

class type queuing class-default
  bandwidth percent 70
policy-map type queuing default-out-policy
  class type queuing class-default
    bandwidth percent 100

```

```

Type network-qos policy-maps
=====

```

```

policy-map type network-qos pqos
  class type network-qos cnq1
    mtu 1500
    set cos 4
  class type network-qos cnq6
    mtu 1500
    set cos 5
    congestion-control random-detect ecn
  class type network-qos class-default
    mtu 9216
policy-map type network-qos default-nq-policy
  class type network-qos class-default
    mtu 1500
switch(config)#

```

次に、システムのすべてのアクティブ ポリシー マップを表示する例を示します。

```

switch(config)# show policy-map system

```

```

Type network-qos policy-maps
=====

```

```

policy-map type network-qos pqos
  class type network-qos cnq1      match qos-group 1
    mtu 1500
    set cos 4
  class type network-qos cnq6      match qos-group 6
    mtu 1500
    set cos 5
    congestion-control random-detect ecn
  class type network-qos class-default      match qos-group 0
    mtu 9216

```

```

Service-policy (qos) input:  pqos
policy statistics status:  disabled

```

```

Class-map (qos):  cqos1 (match-all)
Match: cos 1
  set qos-group 1

```

```

Class-map (qos):  cqos6 (match-all)
Match: cos 6
  set qos-group 6

```

```

Class-map (qos):  class-default (match-any)
Match: any
  set qos-group 0

```

```

Service-policy (queuing) output:  pqu
policy statistics status:  disabled

```

```

Class-map (queuing):  cqul (match-any)
Match: qos-group 1
  bandwidth percent 10

```

```

Class-map (queuing):  cqu6 (match-any)
Match: qos-group 6
  bandwidth percent 20

```

```

Class-map (queuing):  class-default (match-any)

```

```

Match: qos-group 0
bandwidth percent 70

```

```
switch(config)#
```

次に、インターフェイスに設定されているサービス ポリシー マップを表示する例を示します。

```
switch(config)# show policy-map interface ethernet 1/1
```

```
Global statistics status : disabled
```

```
Ethernet1/1
```

```
Service-policy (qos) input: pqos
policy statistics status: disabled
```

```
Class-map (qos): cqos1 (match-all)
Match: cos 1
set qos-group 1
```

```
Class-map (qos): cqos6 (match-all)
Match: cos 6
set qos-group 6
```

```
Class-map (qos): class-default (match-any)
Match: any
set qos-group 0
```

```
Service-policy (queuing) output: pqu
policy statistics status: disabled
```

```
Class-map (queuing): cqul (match-any)
Match: qos-group 1
bandwidth percent 10
```

```
Class-map (queuing): cqu6 (match-any)
Match: qos-group 6
bandwidth percent 20
```

```
Class-map (queuing): class-default (match-any)
Match: qos-group 0
bandwidth percent 70
```

```
switch(config)#
```

次に、特定のインターフェイスのキューイング情報を表示する例を示します。

```
switch(config)# show queuing interface ethernet 1/1
```

```
Ethernet1/1 queuing information:
```

```
TX Queuing
```

qos-group	sched-type	oper-bandwidth
0	WRR	70
1	WRR	10
6	WRR	20

```
RX Queuing
```

```
qos-group 0
HW MTU: 1500 (1500 configured)
drop-type: drop, xon: 0, xoff: 0
Statistics:
Ucast pkts sent over the port : 0
Ucast bytes sent over the port : 0
Mcast pkts sent over the port : 0
Mcast bytes sent over the port : 0
Ucast pkts dropped : 0
Ucast bytes dropped : 0
Mcast pkts dropped : 0
Mcast bytes dropped : 0
qos-group 1
HW MTU: 1500 (1500 configured)
drop-type: drop, xon: 0, xoff: 0
Statistics:
Ucast pkts sent over the port : 0
```

```
Ucast bytes sent over the port      : 0
Mcast pkts sent over the port       : 0
Mcast bytes sent over the port      : 0
Ucast pkts dropped                   : 0
Ucast bytes dropped                  : 0
Mcast pkts dropped                   : 0
Mcast bytes dropped                  : 0
qos-group 6
HW MTU: 1500 (1500 configured)
drop-type: drop, xon: 0, xoff: 0
Statistics:
Ucast pkts sent over the port       : 0
Ucast bytes sent over the port      : 0
Mcast pkts sent over the port       : 0
Mcast bytes sent over the port      : 0
Ucast pkts dropped                   : 0
Ucast bytes dropped                  : 0
Mcast pkts dropped                   : 0
Mcast bytes dropped                  : 0
switch(config)#
```




索引

C

- CoS マーキング [23](#)
 - 設定 [23](#)
- CPU トラフィック [10](#)
 - QoS [10](#)

D

- DSCP 分類 [14](#)
 - 設定 [14](#)

I

- IP precedence マーキング [26](#)
 - qos [26](#)

M

- MQC [3](#)

P

- precedence 分類 [17](#)
 - 設定 [17](#)

Q

- qos [26](#)
 - IP precedence マーキング [26](#)
- QoS [10, 14, 17](#)
 - CPU トラフィック [10](#)
 - DSCP 分類 [14](#)
 - 設定 [14](#)

QoS (続き)

- precedence 分類 [17](#)
 - 設定 [17](#)

- QoS の設定 [10](#)
 - 注意事項と制限事項 [10](#)

- Quality of Service [3](#)
 - 関連項目 : [QoS](#)
 - 概要 [3](#)
 - 関連項目 : [QoS](#)

S

- SPAN [33](#)
 - バッファ使用量の設定 [33](#)

V

- VLAN [32](#)
 - バッファ使用量の設定 [32](#)

か

- 概要 [3](#)
 - Quality of Service [3](#)
- 関連情報 [5](#)
 - システム クラス [5](#)

く

- クラス マップ [11](#)
 - 設定 [11](#)

し

- システム クラス [5](#)
 - 関連情報 [5](#)
- システム サービス ポリシー [28](#)
 - 接続 [28](#)
- ジャンボ MTU [30](#)
 - 確認 [30](#)

せ

- 接続 [28](#)
 - システム サービス ポリシー [28](#)

た

- タイプ QoS ポリシー、設定 [20](#)

て

- デフォルトのシステム サービス ポリシー [28](#)
 - 復元 [28](#)

に

- 入力 [9](#)
 - 分類ポリシー [9](#)

は

- バッファ使用量 [32, 33](#)
 - SPAN トラフィックの設定 [33](#)
 - 設定 [32](#)

ふ

- 復元 [28](#)
 - デフォルトのシステム サービス ポリシー [28](#)
- 分類ポリシー [9](#)
 - 入力 [9](#)

ほ

- ポート [32](#)
 - マルチキャスト [32](#)
 - 低速受信ポートの設定 [32](#)
- ポリシー マップ [18](#)
 - 作成 [18](#)

ま

- マーキング [23](#)
 - 関連情報 [23](#)
- マルチキャストの低速受信ポート [32](#)
 - 設定 [32](#)

も

- モジュラ QoS CLI [3](#)